

## 2024年3月期 第3四半期 決算説明会 Q&A

●第1回：2024年2月1日（Q1～Q18）

●第2回：2024年2月29日（Q19～Q21）

第1回 2024年2月1日（Q1～Q18）		
Q1	SPE	WFE2024年の成長の見方（1桁%前半）に対して、御社の成長はどうか？
A1		来期も増収、増益ができると考えている。足元で3Q受注は高水準。4Qも高水準が続くと見ているため。中国市場とファウンドリー、ロジックの微細化投資がけん引するだろう。
Q2	SPE	4Qの営業利益率低下予想の要因は？また、来期の営業利益率はどうか？
A2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Qの高い営業利益率は、ミックスが想定以上に良かったことが要因であり、4Qは通常レベルに戻る見通し。また、4Qでは将来のPOR（プロセス・オブ・レコード）拡大のための開発装置をお客さまに納入する費用も見込んでいる（利益的にはマイナス要因）。</li> <li>・来期の営業利益率については現在予算策定中であり、具体的な数字についてのコメントは差し控えたい。</li> </ul>
Q3	SPE	WFE2024年は微増との見方について、メモリーの回復は遅れているとのコメントだが、何か（他のもの）でオフセットできるのか？
A3		中国市場と、微細化に向けた投資が貢献すると見ている。
Q4	SPE	昨年の <a href="#">IR デイ 2023</a> （2023年9月25日、資料P.24～25）で示された、2024年度（来期、2025年3月期）売上見通しから変更はあるか？
A4		現状でも、来期は増収増益を目指せると考えている。
Q5	SPE	4Qの売上がかなり増える予想だが、工場の生産能力を上回っているように見えるが（大丈夫か）？また3Qの受注高水準とのことだが、これは生産能力の増強によるものか？
A5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4Q売上については実際の生産能力を上回った予想になっている。実際には、一部のお客さま向けの生産済み装置が売り上がるため（生産能力に問題はない）。棚卸資産が膨らんだ要因にもなっている、滞留在庫が売り上がるためである。</li> <li>・受注増については、工場の生産能力増に従って増えている。</li> </ul>
Q6	全社	フリー・キャッシュフローが増えているが、来期発表される新・中期経営計画の株主還元方針についての（方向性がイメージできる）ヒントは？
A6		SPEの前受金増加が大きな要因としてある。装置が出荷されていけば、今後徐々に減っていく。また、現在サプライヤーへの支払いサイト短縮にも取り組んでおり、相応の資金が必要となる。次の成長に向けての投資も必要。そのあたりを総合的に精査し、次期中期経営計画の還元方針を作りたい。
Q7	SPE	WFE2024年のアプリケーション別の動向は？
A7		ファウンドリーは、ほぼ同水準と見ている。ロジックは若干減。メモリーは前年低調だったため、増加すると見ている。画像素子、パワーデバイスは同水準。中国市場は依然活発で、前年と同程度の投資が続くだろう。
Q8	SPE	中国市場の継続性はどうか？アプリケーション別ではどうか？

A8		アプリケーション別で特に特徴は見当たらないが、新興のお客さまだけでなく、既存のお客さまもしっかり投資をされると見ている。
Q9	全社	<a href="#">プレゼン資料</a> (P.22) の業績予想「その他および調整」セグメントについて、(売上、営業損益予想) バッファーに見えるがどうか？
A9		「その他および調整」には、HD で抱えている研究開発費が含まれており、今期しっかり使い切るべく運営をしていく。
Q10	SPE	売上高固定費比率の改善について進捗はどうか？
A10		売上増にともない固定費は増加している。さらなる改善には若干時間を頂くことになるだろうが、やるべきことはしっかりと行っていく。次期中期経営計画の課題となる。
Q11	SPE	御社の WFE 2024 年成長率の見方と、SEAJ の 2024 年度成長率の見方との違いは？
A11		SEAJ の見方は、今期大きくマイナス成長なので来期は大きくプラス成長に見えるだろう。また暦年と会計年度の違いも、計算に影響がある。SEAJ は日系製造装置メーカーだけの分析ということも要因だろう。
Q12	SPE	競合状況についてはどうか？
A12		大きな POR 移動もなく、目立った変化はないと思っている。来期の成長は顧客の投資、市場の成長に沿ったものになる。
Q13	SPE	4Q の営業利益率に上振れる要素はあるか？
A13		3Q はミックスが良く営業利益率が出来すぎであり、4Q は通常レベルに戻る予想。ただし上振れについては鋭意努力していきたい。
Q14	全社	次の中期経営計画について現時点でのメッセージは？
A14		詳細は現状詰めているが、今まで以上に企業価値の向上を目指していきたい。経営大綱で掲げている大きな目標*に向けての準備を進めていく期間になるだろう。 ※ <a href="#">IR デイ 2023 資料</a> (P.13~14) 、 <a href="#">アニュアルレポート 2023</a> (P.26 など) に掲載
Q15	SPE	3Q の高い営業利益率について、何か複数要因があったのか？
A15		個別のお客さまの商談についてコメントは差し控える。またアプリケーション別で何か特徴があった訳ではない。
Q16	SPE	来期中国市場は既存顧客の投資も増えるとのことだが、採算性に影響は無いのか？
A16		お客さまによって採算性に差があるのは事実だが、通期で均して見ると一定で、この傾向は大きく変わらないだろう。営業利益率は我々の改善努力で上げていけると思っている。
Q17	FT	採算性向上の背景は？
A17		ビジネス的には、プレーヤー（競合）の数が少なくなってきた。固定費も、水素関連事業を HD に移管しコントロールしやすくなってきたことが要因。
Q18	SPE	4Q で台湾顧客の北米売上を想定していると思うが、もし来期にずれの場合、何か（別の案件）で穴埋め可能か？
A18		個別のお客さまの状況についてのコメントは差し控えるが、4Q の売上は達成できると考えている。
<b>第2回 2024年2月29日 (Q19~Q21)</b>		
Q19	GA	今後の市況見通しはどうか？
A19		来期 1Q あたりまでは drupa（大型展示会、8年振りの開催）前の買い控えがあり状況は厳しいだろう。展示会後は商談が徐々に活発になると見込んでいる。
Q20	FT	来期の見通しは？

A20		足元で来期の売上を支える受注が入ってきており、来期は増収、黒字転換を見込む。
Q21	PE	今後の見通しはどうか？
A21		半導体の設備投資と連動するため、来期前半までは低迷するだろう。年後半のメモリー投資回復に期待する。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、  
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業